

平成28年

かすみがうら市議会第3回定例会会議録 第3号

平成28年9月12日(月曜日)午前10時00分 開 議

出席議員

1番	櫻井繁行君	9番	小松崎誠君
2番	宮嶋謙君	10番	加固豊治君
3番	設楽健夫君	11番	佐藤文雄君
4番	来栖丈治君	12番	中根光男君
5番	川村成二君	13番	鈴木良道君
6番	岡崎勉君	14番	小座野定信君
7番	田谷文子君	15番	矢口龍人君
8番	古橋智樹君	16番	藤井裕一君

欠席議員 なし

出席説明者

市長	坪井透君	環境経済部長	田崎清君
副市長	横瀬典生君	土木部長	渡辺泰二君
教育長	大山隆雄君	上下水道部長	堀口家明君
理事	西山正君	会計管理者	山本高光君
理事	板垣英明君	教育部長	飯田泰寛君
市長公室長	木村義雄君	消防長	井坂沢守君
総務部長	小松塚隆雄君	農業委員会事務局長	高田忠君
市民部長	根本一良君	監査委員事務局長	槌田浩幸君
保健福祉部長	金田克彦君		

出席議会事務局職員

議会事務局	局長	櫻井清
〃	補佐	神野厚
〃	係長	小池陽子
〃	係長	齋藤邦彦
〃	主任	青山哲士

議事日程第3号

日程第1 一般質問

(1) 小松崎 誠 議員

1. 本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

(1) 小松崎 誠 議員

本日の一般質問通告事項一覧

通告順	通告者	質問主題
		(質問の区分)
(1)	小松崎 誠	1. 子育て支援対策における当市の取り組みについて
		2. ご当地ナンバーについて
		3. 歩崎の交流センターを拠点に設立をした第三セクターかすみがうら未来づくりカンパニーの事業について
		4. 観光事業の取り組みについて

開 議 午前10時00分

○議長（藤井裕一君）

おはようございます。

ただいまの出席議員数は、16名で会議の定足数に達しております。

よって、会議は成立いたしました。

それでは、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付してあります議事日程のとおりであります。

なお、今定例会の会期日程が一部変更となっていることを申し添えます。

一般質問に先立ち、議員各位に申し上げます。

一般質問は、通告に基づき、市の一般事務についてたずね場です。

したがいまして、通告外の質問及び市政以外の質問は認められませんので、ご注意ください。

また、各種法令を遵守した上で発言していただくことを求めます。

なお、一般質問については、執行部の答弁を含め、議員1人90分の持ち時間となっておりますので、念のため申し添えます。

執行部に申し上げます。

能率的な会議運営の観点から、簡明なる答弁をお願いいたします。

傍聴の方に申し上げます。

傍聴受付の際にお渡しをいたしました傍聴章の裏面に記載されております注意事項を遵守し、お静かに傍聴していただきますようお願いいたします。

日程第 1 一般質問

○議長（藤井裕一君）

日程第1、一般質問を行います。

順次発言を許します。

9番 小松崎 誠君。

[9番 小松崎 誠君登壇]

○9番（小松崎 誠君）

おはようございます。

早速ですが、通告に従いまして一般質問を行います。

まず、1番の子育て支援対策における当市の取り組みについて伺います。

今の日本は、少子高齢化の進行で将来へ向けての不安が若い世代ほど大きくなっております。また、人口の東京一極集中は一向に是正が見られず、地方へ行けば行くほど、不安が募る状況となっております。

そのような中で、日本の、そしてかすみがうら市の将来を託す子ども、1人でも多く生み育ててほしいというのは誰もが願うところでございます。本市においても、7日の宮嶋議員への答弁でありましたように、子育て世代への多様な支援策がなされているとのことですが、私からは違った視点での支援策について質問させていただきます。

最初に、かすみがうら市では子育て支援サイト「かすみっ湖」を本年4月に開設いたしました。子育てをするお父さん、お母さんを応援する趣旨があると考えますが、子育て支援サイト「かすみっ湖」の内容と利用状況はどのようになっているのかをお聞きいたします。

続いて、最近、新聞やテレビなどでは子どもの虐待についての報道が後を絶ちません。虐待は年々増加しているとの報道もありました。豊かな社会となった今、このような子どもに関する痛ましい報道を耳にすると、とてもいたたまれない気持ちになります。

また、冒頭にも言いましたように、少子化問題は地域の抱える課題となっております。こういったことを考えますと、これからは家族だけでなく、地域や行政も関わっての子育てにより、親の負担を軽減する対策を講じることが肝要かと思われまます。ついては、かすみがうら市として予定される子育てについて、子育てに関する施策にはどのようなものがあるのかお聞きいたします。

2点目、ご当地ナンバープレートについてお伺いいたします。

近年、全国各地において50CCの原付バイクや小型特殊自動車等のナンバープレートの交付として、ご当地ナンバープレートが導入されております。このご当地ナンバープレートの最初の取り組みは、平成19年の愛媛県松山市で司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」によるまちづくりになみ、雲の形のナンバープレートを作成し、導入され、その後、全国各地に取り組みが広がっております。

全国の例を見ますと、静岡県御殿場市や山梨県富士吉田市などでは富士山型のナンバープレートであったり、山形県天童市では将棋の駒の形であったり、また、ご当地のイメージキャラクターを使用するなど、地域の産業や文化、歴史、食べ物や植物など、地域の特徴を生かしたご当地のナンバープレートが導入されております。ご当地ナンバープレートは市の紋章として地域の人々に親しまれ、地域への愛着が深まることが期待されるものかと思います。

かすみがうら市オリジナルのナンバープレートをつけたバイクが、市内はもちろん市外を走ると、走る広告塔としてPR効果があるのではないのでしょうか。かすみがうら市というまちをPRすることにより、農業振興、観光振興にもつながるものであり、地域振興は地方創生の取り組みの1つと考えます。全国的にも導入が広がる中、かすみがうら市においても地方創生の一環とし

でもご当地ナンバープレートの導入の検討が必要と考えますが、市の見解をお伺いいたします。

3点目、歩崎の交流センターを拠点に設立をした第三セクターかすみがうら未来づくりカンパニーの事業について、質問いたします。

地方創生という言葉が最近よく耳にしますが、そもそも地方創生とは2014年に発足した第2次安倍内閣が掲げる政策の1つであり、主に東京への一極集中の解消と地域振興、活性化を通して人口減少に歯どめをかけるということだと、私なりに理解をしているところであります。

先ほど、他部局にも質問させていただきましたが、子育て支援の充実や市の事業の積極的なPRなどの当市への定住促進にとっては大変重要なファクターであると認識しております。全国一斉に始まった地方創生だからこそ、より魅力的な施策が求められているのではないのでしょうか。都市部へ人口が集中することは、住環境の低下や交通渋滞などのマイナス要素が多々あり、最近では地方に働く場を求めて移住してくるIターンなどもふえていると聞きます。

こういう状況の中、地方がそれぞれの特色を出しながら、こんなところになら住んでみたいと思ってもらえる環境と働く場さえあれば、自然と定住人口がふえてくるものと思います。誰しも環境のいいところで伸び伸びと子育てをしたいという欲求があると思うところであります。また、人口がふえてくれば、それに伴い、スーパーなどの商業施設や学校などのインフラが整備されていき、それにより働く場がふえ、さらなる人口増加を招くという相乗効果も期待されるところであります。

今年度、当市においても新たに地方創生の専門部局が創設されました。このことは、地方創生に対する当市の意気込みを強く感じさせる反面、今後、訪れる人口減少社会は当市においても他人事ではないということのあらわれでもあるのでしょうか。人口減少を食い止めることは大変難しいことではありますが、なるべく減少のスピードを緩やかにすることは可能だと思っております。ぜひ新しくできた地方創生の部局においては、少しでも人口の減少を抑えるために地域を活性化し、また、そのためにはいろいろな角度から方策を検討していただきたい。関係部署と連携しながら、全庁的なムーブメントを起こしてもらえたらと期待しております。

当市、まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点事業である地域資源活性化プロジェクトの効果的な実施に向けて、株式会社ステッチ、株式会社筑波銀行、かすみがうら市のそれぞれの出資による地方創生に係る第三セクター、株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーが今年4月に設立されました。新会社は、サイクリングプログラムから派生したフルーツを核とした、かすみがうらの地域資源を生かすさまざまな事業を展開し、かすみがうら市の活性化を目的とした会社であると伺っております。

そこで、次の2点について質問いたします。1点目として、株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーの実施する事業の1つであり、7月に当市の歩崎にオープンしたかすみキッチンについてお伺いします。かすみキッチンは、市産の食材を使用し、女性や健康志向のある方を対象としたヘルシーなメニューを提供していくとうたっていますが、オープンしてから現在までの集客状況について、平日と休日、また日中と夜間別に、わかればお伺いします。

2点目として、株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーが今後予定している事業が幾つかあるかと思いますが、その事業についても、事業内容と目的、実施時期についてもお伺いいたします。

次に、観光事業の取り組みについて質問させていただきます。

官公庁の発表によりますと、昨年の在日外国人、観光客が年間1974万人を突破したとの報道がありました。これまでの最多は2014年の1341万人でしたが、格安航空会社LCCを含め、海外と日本を結ぶ航空路線が充実され、東京オリンピック、パラリンピックの開催決定もあり、訪日客の呼び込みにつながったとされます。どちらかといえば内向きのニュースが多い中で、明るいニュースとして受けとめられたのも記憶に新しいところでもあります。

県においても、外国人向けのツアーの誘致に向け、海外イベントなどにおいて精力的に観光PRや商談会を実施するなど、戦略的な誘致促進策を展開しているところでもあります。茨城空港からの発着便も中国便が2路線、台湾便が1路線のほか、ベトナムからのチャーター便の発着など、多くの外国人観光客が茨城空港を利用している状況にありましたが、これまでの活動の成果があらわれてきているのではないかと、大変評価をしているところでございます。こういった一部路線が休止になっている状況も現在ありますが、早いうちの海外の定期便の再開を望むものであります。

観光は光を観ると書くとおりに、人の気持ちを前向きにさせるものであります。旅行を生きがいに行っている人も多く、外国、国内、遠距離、近距離にかかわらず、人間の心の充実に貢献するものであります。また、観光は地域づくり、まちづくりと密接にかかわると言われております。地域が一丸となって個性あふれる観光地域をつくり上げ、その意欲をみずから積極的に発信していくことで、住民にとって誇りと愛着の持てるまちづくりになっていくと思われま。

私は、観光産業の発展に今後ますます力を注ぐべきであると考えておるところでございます。そこで、本市の観光事業の取り組みについて、順次お伺いします。

1点目は、外国人並びに他地域からの観光誘客の促進に向けてどのように取り組んでいくのかお伺いいたします。2点目は、具体的な戦略をどう描いているのか。この2点についてお伺いいたします。

以上、第1回目の質問とさせていただきます。

○議長（藤井裕一君）

答弁を求めます。

市長 坪井 透君。

[市長 坪井 透君登壇]

○市長（坪井 透君）

小松崎議員の質問にお答えをいたします。

初めに、1点目、子育て支援対策については、保健福祉部長から、次、2点目、ご当地ナンバープレートについては、市民部長から、3点目、かすみがうら未来づくりカンパニーについては、地方創生事業推進担当理事からの答弁とさせていただきます。

次に、4点目1番、観光客誘致促進に向けての取り組みについて、2番、具体的な戦略について、あわせてお答えをいたします。

近年、海外からの観光客の急増に伴いまして、インバウンド事業をいかに取り組み、観光誘客による地域の活性化を図っていくかは、本市のみならず、全国市町村におきまして共通の課題となっているところであります。来日いたしました外国人が大量にまとめ買いをする、いわゆる爆

買いから、医療、健康、美容、芸術鑑賞、グルメ、スポーツ、学習、農業等、物を購入する以外に何かを体験する、体験型へと興味、関心が移ってきているというふうに言われております。

豊かな自然に恵まれている本市におきましては、果樹観光のふるさととして果物狩りを初め、収穫体験やサイクリングイベント等、地域資源を最大限に生かし、観光交流人口の増加に努めてまいります。

また、平成31年茨城国体や平成32年東京オリンピックの開催を見据えまして、県や近隣市町村と連携をしながら、観光客誘致促進に向けまして取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（藤井裕一君）

保健福祉部長 金田克彦君。

[保健福祉部長 金田克彦君登壇]

○保健福祉部長（金田克彦君）

小松崎議員のご質問、1点目の1番、子育て支援サイト「かすみっ湖」の内容と現在の利用状況についてお答えをいたします。

子育て支援サイト「かすみっ湖」につきましては、平成27年度補正予算にて県補助金を活用した地域少子化対策強化交付金事業により構築をしたもので、本年4月よりスタートいたしました。このサイトを開設した趣旨でございますが、妊娠、出産から子育てまでを継続的に支援していくことにあり、一言で申し上げますと切れ目のない支援を行うことが目的となっております。

子育て支援サイト「かすみっ湖」の内容につきましては、小学校就学前の子どもを中心とした各種お知らせや案内となっており、主なものを申し上げますと、定期検診、各種支援制度、子育てに関する悩みの相談窓口、保育所等の案内、子育てのアドバイスなどに関することとなっております。

また、利用者数でございますが、8月下旬現在のアクセス数につきましては3,589名と。このうち、80%は携帯電話からのアクセスとなっており、若い子育て世代にも活用されているものと考えております。

1点目2番の子育てに係る家族・地域・行政のかかわりによる母親の負担軽減対策についてお答えをいたします。

ご質問の内容につきましては、先ほどの答弁の中で申し上げました地域少子化対策強化交付金事業において、子育て支援サイト「かすみっ湖」の構築に加えて、妊産婦の支援を行う10名の市民子育て支援員を養成しております。養成に当たっては、育児、栄養、睡眠、発達など、さまざまな分野の専門家に依頼をし、13回の講演を受講し、さまざまな観点からの相談支援ができる体制となっております。

一義的な目的としては、地域のつながりの希薄化により核家族における子育て支援の孤立化と子どもへの虐待を防止することを目的に、親と子のよりよい家庭環境の構築を支援し、親の負担軽減の一助となればと考えております。

以上です。ご理解のほどよろしく申し上げます。

○議長（藤井裕一君）

市民部長 根本一良君。

[市民部長 根本一良君登壇]

○市民部長（根本一良君）

それでは、2点目1番、ご当地ナンバープレートの導入によって市のPRを図ってはと思うが、その認識について伺う、の質問に、ナンバープレートの交付、また課税事務を行う市民部としてお答えいたします。

総排気量125cc以下の原動機付自転車や小型特殊自動車等のナンバープレートにつきましては、形状や図柄が市区町村で決定できることもあり、全国各地でご当地ナンバープレートが導入されております。

ご当地ナンバープレート、オリジナルナンバープレートと呼ばれており、導入事例を調査している一般財団法人日本経済研究所によりますと、導入の契機は、市制施行何周年記念事業やイベントの一環によるものということでございます。

ご当地ナンバープレートは平成19年に愛媛県松山市で導入が始まり、平成28年4月現在、全国の409市区町村で、また、県内においては土浦市、石岡市を初め、14の市町で導入されております。

本市の状況及び経緯を申し上げますと、平成27年にかすみがうら市が合併10周年を迎えるに当たり、ナンバープレートの交付課税事務を行う税務課の案として、観光産業等を担当する観光商工課と協議し、かすみがうら市のオリジナルナンバープレートのデザイン、形状等を含め作成費用の予算見積もりをしましたが、予算査定の結果、財政状況の理由により予算計上には至りませんでした。次年度の平成28年度において予算額を減額し見積もりを行いました。当該事業の担当が税務課ではないこととの判断もあり、予算計上は見送りとなった経過がございます。ご当地ナンバープレートは、一般的なナンバープレートではなく付加価値をつけるものであることから、必要意義、また醸成が基本であることは、交付と課税事務を行う担当部署としては認識しております。

ご当地ナンバープレートは、地域の愛着が深まることが期待できるものであり、また、走る広告塔として市のPR効果が期待できるものと認識しておりますが、さまざまな理由を踏まえ、今後、総合的な検討が必要であると考えているところでございます。

ご理解賜りますよう、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○議長（藤井裕一君）

理事 板垣英明君。

[理事 板垣英明君登壇]

○理事（板垣英明君）

それでは、私のほうから3点目、歩崎の交流センターを拠点に設立した第三セクターかすみがうら未来づくりカンパニーの事業についての1番、かすみがうら未来づくりカンパニーの実施する事業の第1弾として、歩崎の交流センター内にオープンしたレストランかすみキッチンの現在までの実績について伺う、についてお答えいたします。

株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーにより、歩崎の交流センター内にかすみキッチンが7月16日にオープンしました。地元の新鮮な食材を使ってとてもおいしいとの評判をいた

だいております一方で、まだまだサービス面などにおいても課題が見受けられるところがございます。今後につきましては、ご来店いただきましたお客様に対しましてアンケートを実施するなどしまして、お客様が納得できる味とサービスがバランスよく提供できるよう、日々努力を重ねてまいりたいと思っております。

かすみキッチンの集客状況ということですが、7月16日にオープンしまして、8月15日までの1カ月間のデータでご説明いたしますと、1,781名のご来客がありました。平日昼11時から15時までのランチタイムの集客状況ですが、平均しますと1日29人となります。平日夜間につきましては、17時から22時の営業となりまして、平均で1日16人となっております。休日の昼は1時間早く10時からのオープンとなりまして、15時までの1日当たりの平均で68人の利用がございました。休日の夜間につきましては、平均で1日当たり24人の利用となっております。

2点目のかすみがうら未来づくりカンパニーの今後の事業展開とその実施時期ということですが、既に8月2日より、自転車で果樹観光をしながら地域資源をめぐる、かすみがうらライドクエストを開始しております。今年の夏は大変な猛暑ということもあり、また、台風の影響などによりキャンセル等もございまして、現在の利用実績は2人となっております。しかし、これから秋に向けた果樹観光シーズンには、自転車にとりましてもベストシーズンでございますので、なるべく多くの方に参加いただけるよう、PR等にも力を入れてまいりたいと思っております。

また、歩崎に来た人が手ぶらでバーベキューを楽しめるよう、交流センターに隣接しました芝生広場にてバーベキューの道具と食材をセットで提供する事業も9月から開始しております。

さらには、交流センター1階にて、市産農産物等を販売するマルシェ事業を計画しているところでございますが、販売方法や十分な執行体制が整い次第、実施していきたいと考えております。

これらの事業を通しまして、地域を活性化していくとともに、広く情報を発信して交流人口の増加を図っていく所存でございます。その結果としまして、かすみがうら市の魅力を十分にアピールしながら、定住促進にまでつなげていければと考えているところでございます。

どうかご理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

それでは、子育て支援対策における当市の取り組みについての再質問を行います。

改めて質問いたします。

答弁の中の定期検診や支援制度などのお知らせや案内は、これまでも市のホームページの中で案内していることと思いますが、いかにも新たなことをやりましたというような答弁に私には聞こえてならないんですけれども、今までになかった情報をこのサイトで新たに案内しているわけではないと思います。

そう考えますと、答弁の内容からは、子育て支援サイトの意義や新しさが感じられませんが、その点についてはどう考えているのか、お伺いいたします。

○議長（藤井裕一君）

保健福祉部長 金田克彦君。

○保健福祉部長（金田克彦君）

議員ご指摘のとおり、子どもに関する各種案内は現時点においても市のホームページ、子育て健康福祉の中の児童福祉の中で案内をしております。しかし、児童福祉に記載をされていない子どもに関する情報がほかにもございまして、子どもに関する情報を集約した内容とはなってございません。これは、市のホームページがわかりづらいというようなことではなくて、健康や保健制度といった業務分野ごとのいわゆる標準的なスタイルであるというようなことからかと考えております。

そこで、子育て支援サイト「かすみっ湖」につきましては、子どもという視点、切り口から、その案内情報を集約したものとなっております、先ほどの答弁の中で申し上げました、切れ目のない支援の1つの要素とも言えるところでございます。このことから、子育て支援サイト「かすみっ湖」は多忙な子育て世代を側面支援する意味からも、優位性を持つものと考えております。

以上です。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

情報集約の優位性はわかりましたが、確かにそういう考えもありますよね。このサイトを見れば子どものことがわかりますから。ですが、私が先ほどの質問の中でお聞きしました、新しさという点についてはどう考えますかということなんです。情報を集約しただけで新しさと言えるのでしょうか。今の子育て世代に訴えかけるというか、引きつけるような新しさはあるのでしょうか。もう一度お聞かせください。

○議長（藤井裕一君）

保健福祉部長 金田克彦君。

○保健福祉部長（金田克彦君）

議員ご指摘の質問の新しさでございますが、先ほど、子育て支援サイト「かすみっ湖」の具体的な中身について主なものをご紹介をさせていただきました。

子育て支援サイト「かすみっ湖」の特徴は、今の時代にマッチした内容として、スマートフォンを活用した機能により、情報提供を可能としております。いわゆるアプリと呼ばれるものをスマートフォンに設定していただくことにより、定期的な情報の配信を受けることができる内容となっております。

また、アプリの機能としましては、情報配信のほかに、子どもの成長記録、スケジュールカレンダーなどがあり、昨今の子育て世代に寄り添った手法という新しさを備えていると考えておりますので、ご理解いただけますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

この②番の再質問に入らせていただきます。

埼玉県のさいたま市では、祖父母手帳というのを配布しているそうですが、この手帳はインターネットからも印刷できることになっております。この手帳は祖父母手帳という名前のとおり、おじいちゃん、おばあちゃんに向けて作成されたものでありまして、中身を端的に言えば、孫へ

の接し方について書かれたものとなっております。例えば、親は義理の祖父母に、親というのは子育てですね、祖父母に孫へのそういう接し方はやめてくれと言いつらい側面があります。ですが、この手帳があれば、さりげなく伝えられます。

さて、さいたま市では政令指定都市の中でも核家族の割合が高いと言われており、子育て世代への協力者が少ない現状があるようでございます。このような中で、祖父母世代に子育て世代への支援の活路を求めたものであると伺っております。

本市の現状を、政令指定都市のさいたま市と一概に比較できるものではございませんが、神立駅周辺の地区については賃貸物件も多く、市内のほかの地区と比較して核家族化率は高いのではないのでしょうか。

これらの現状を踏まえて、さいたま市が実施している祖父母手帳のような施策の実施を、かすみがうらとしてどう考えるか、お伺いいたします。

○議長（藤井裕一君）

保健福祉部長 金田克彦君。

○保健福祉部長（金田克彦君）

支援サイト「かすみっ湖」に関する答弁の中でも申し上げましたが、核家族における子育ての孤立化や子どもの虐待が強く懸念されているところでありまして、今後はますます子育て世代への支援が求められているところでもございます。

ご質問の祖父母手帳につきましては、今と昔の子育て観念の違いを祖父母に理解をしてもらう手段として、とても有効なものであるととらえております。本市では、祖父母手帳のような視点においての施策は実施してございませんが、市民子育て支援員や昨年度作成しました子育てガイドブックなどに加えまして、子ども未来室の家庭児童相談員とハートフル相談員など多様な主体の連携によりましての子育て世代の支援を行っているところでもございます。

特に、子育て支援の支援員につきましては、母子手帳交付の際に希望された妊婦の自宅へ保健師が同行しての訪問を行っておりますので、このような機会からかかわりを持つ重要なタイミングと捉えると同時に、妊産婦の方に気兼ねなく相談できる窓口として認識をしていただき、産前だけでなく産後、そして子育て支援につなげていきたいと考えております。

以上です。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

かすみがうらとしても本年度から子育て支援サイト「かすみっ湖」や市民子育て支援員、そして子育てガイドブックの作成など、さまざまな形で支援していることはわかりましたが、ただ、祖父母手帳は支援の視点が違うんですね。これからの支援は、行政だけでなく、祖父母の孫育て力とでも言いましょうか。そういった支援策が必要になるのではないかということでもあります。

祖父母の世代がよかれと思ってやったことが、子の世代では受け入れられないことが多々生じているのも現実的にありますし、祖父母の世代と子の世代の子育てには持っている知識に大きな差が生じているのではないのでしょうか。そこで、それを埋めることが相互理解に合った上での子育てになりますし、後には同居への抵抗感も薄れて第2子以降の出産へとつながる要素も十分に

あると考えられます。こういったことから、私は祖父母手帳を支援施策の1つとして実施してはどうかと考えて質問したものであります。この点についてはどうお考えか、お聞かせください。

○議長（藤井裕一君）

保健福祉部長 金田克彦君。

○保健福祉部長（金田克彦君）

ご質問の手帳の件につきましては、支援の視点を祖父母に置いておきまして、世間で言われている孫の面倒を見るという昔ながらの部分も踏襲しつつも、今と昔の子育ての違いをわかりやすく説明をしておき、祖父母世代と祖父母世代の間の子育てに関するエチケットのような役割を果たしまして、相互理解が深まるものと期待感を持つところでもございます。

また、ご指摘をいただきました地域の孫育てという点は、近隣市町村にはない先進事例であると考えております。また、先進地のさいたま市に確認をしたところでは、市民やほかの自治体からたくさん問い合わせが寄せられており、非常に関心が高いとのことでもございます。

このようなことを踏まえまして、本市といたしましては、今後、子育て世代の支援施策の1つとして事例の検証を行い、実施について検討をさせていただきたいと思っておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

今、答弁で、祖父母世代と父母世代を、祖父母世代と祖父母世代と言いましたよね。これは父母世代ね。訂正しますね。

それで、最後になりますけれども、2回目の質問でインターネットからも印刷できますと申し上げましたけれども、行政が冊子にして配布すれば、祖父母に対して説得力があるのではないかということで、こういうことを考えたかどうかということで質問させていただきました。

ぜひ、前向きに検証、検討して実現されることを切に願うものでありますけれども、先ほどから祖父母手帳、祖父母手帳と言いまして、内容が、皆さん、わからないで聞いていらっしゃると思うので、簡単にちょっと事例を挙げてみます。

こういうふうに数ページにわたってダウンロードできるんですけども、その中に目次がありまして、「わが家に孫がやってきた。お互いにいいこといっぱい祖父母の孫育て。いっしょに考えよう”上手な付き合い方”。知っておこう子育ての新常識。防げる事故から孫を守ろう。孫といっしょに遊ぼう。孫とお出かけスポット。期待しています”祖父母力”。”孫育て”を支えるサービスがあります。」と、こういう内容でいろいろと事細かに祖父母手帳に書かれているわけです。

その中で特に特出すべきことが、「ここが変わった子育ての昔と今」ということで、これは具体的には時間がないのであまり言いませんけれども、大きなところでは、だっこの仕方、授乳の仕方、卒乳の仕方、うつぶせ寝、離乳食の進め方、虫歯の予防、おむつはずれ、日光浴、歩行器、こういう内容で今と昔では全然違うということなんです。その中の私もこれ、見て思ったのは、今やっている人はいないと思っておりますけれども、虫歯予防で、おじいちゃん、おばあちゃんがかみ砕いて赤ちゃんにご飯を食べさせる。これ、やってはいけないんだそうですね、今はね。虫歯菌

が移っちゃうんだそうですよ。こういうふうに、今と昔ではいろんな常識が違ってきますんで、そういうことで、ぜひともこれを参考にさせていただいて、かすみがうら市でも、おじいちゃん、おばあちゃんと同居しても嫌がらない、そういう子育て世代を多くつくっていただきたいなと思うところであります。

どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、ご当地ナンバーについてお伺いします。

近隣の土浦市、石岡市を含めて、県内でもご当地ナンバープレートの導入が広がっている状況であります。また、当市においても予算見積もりも含め、内部での検討があったと理解しております。各種事業において、財政事情を考慮しなければならないこととは思いますが、ご当地ナンバープレートの導入費用はどれくらいかかるのか、お伺いします。また、交付における収入等はあるのでしょうか。

以上、お伺いします。

○議長（藤井裕一君）

市民部長 根本一良君。

○市民部長（根本一良君）

それでは、お答えいたします。

自治体において、ご当地ナンバープレートを導入できるものは、50 c c、90 c cのバイク、また120 c cのバイク、また小型特殊自動車、自転車等になりますが、ナンバープレートの年間交付枚数及び費用等を考慮しまして、まずは50 c cのバイクのみにご当地ナンバープレートを導入することで試算したところ、初期の一時費用となるナンバープレートの金型が約80万円程度になります。また、ナンバープレートは発注枚数によりますが、通常ナンバープレートは年間3万円、ご当地ナンバープレートの場合は年間およそ10万円になります。また、ナンバープレートの交付は原則無料となりますので、収入等はございません。

また、今までの経過の中でご当地ナンバーの導入についてはご指摘のとおり、市内はもちろん、市外を走る広告塔としてPR効果があるなど、付加価値をつけることであることと思います。さらに、過去の予算折衝の経過による税務課の事務の基本ベースをくれたものと判断されていることから、観光関係とか地方創生関係で企画制作をいただき、それを交付または課税を税務課等で担当するのが現在までの経過と思われま。

また、ご当地ナンバーの交換を踏まえたものとなろうかと認識しておりますので、よろしくご理解のほどお願いいたします。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

今までの質問や答弁にもありましたように、このご当地ナンバープレートの導入は全国的にも、また県内においても広がりを見せている状況だと思います。ナンバープレート交付による直接的な収入はないとしても、ご当地ナンバープレートにより自分の住んでいるまちへの愛着が深まることも期待できます。

市外の方にはかすみがうら市に興味を持ってもらうことなど、市の魅力を伝える1つの情報発

信の戦略になるかと思われます。市のPR効果によりかすみがうら市の発展につながるものと考えますので、積極的で仲よく、各関係部署が仲よく検討をしていただきまして、前向きな施策につながるようお願いするものであります。

○議長（藤井裕一君）

ここで暫時休憩します。

休 憩 午前10時46分

再 開 午前10時57分

○議長（藤井裕一君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

保健部長から発言訂正の申し出がありましたので、発言を許します。

保健福祉部長 金田克彦君。

○保健福祉部長（金田克彦君）

大変申し訳ございません。

小松崎議員さんの1点目のご質問の中での、「かすみっ湖」サイトへのアクセス数の件でございますが、携帯電話からのアクセス数を先ほど80%という数字で申し上げましたが、30%への訂正をお願いしたいと思います。

それと、もう1点でございますが、祖父母手帳に関するご質問の中での答弁の中で、祖父母世帯と父母世帯との間の子育てに関するエチケットというべきところを、祖父母世帯と祖父母世代というようなことで重ねて申し上げてしまいましたので、訂正のほうをよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

それでは、3点目の交流センターの中での先ほど答弁いただいたレストランの集客実績のことなんですけれども、当初見込んでいた数字と比較してどうなっているのか。また、今後の見通しについてはどのように分析されているのかについて、お伺いいたします。

○議長（藤井裕一君）

理事 板垣英明君。

○理事（板垣英明君）

では、お答えいたします。

レストランの集客状況ですが、当初計画について、平日昼間の集客は1日当たり20人を見込んでおりましたが、実績では29人となりまして、平日の昼間は9人ほど、計画よりはふえている状況にあります。また、平日の夜間につきましては、計画が15人に対しまして1人増の16人となっております。土日昼間につきましては、計画で1日平均50人を見込んでおりましたが、68人、こちらも計画より18人ほどふえている状況となっております。土日夜に関しましては、25人の計画がありましたが、24人ということで、こちらは1人ほどマイナスとなっている状況でありま

す。このことから、現在の段階ではおおむね順調な滑り出しができたのかなと私のほうでは見ております。

ただし、夏休みの期間中でもありまして、9月以降につきましては、ちょっとどうなるかわからない状況でありますので、今後につきましてはいろいろな媒体、メディアを通して積極的にPR活動を行っていくとともに、高い次元でのサービスとコストのバランスを追究していきたいと考えております。そしてできるだけ多くのお客様にリピーターとしてなっていただけるように努めてまいりたいと思っております。

また、ライドクエストやバーベキューにつきましては、実施時期が大幅におくれたこともありまして、現段階での比較はできませんが、参考までに計画人数を申し上げますと、ライドクエストは、平日計画参加人数は3名、休日で15名としてございます。バーベキューにつきましても、ちょっと計画がおくれまして、実績はまだございませんが、土日の利用をバーベキューは考えていまして、1日50人というふうに見込んでおります。

以上でございます。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

今のお答えの中で、横文字でライドクエストというのが出てきましたね。これは、わかる人にはわかるし、わからない人にはわからない。これは造語か何かですかね。ちょっとわかりやすく日本語でちょっとお願いします。

○議長（藤井裕一君）

理事 板垣英明君。

○理事（板垣英明君）

失礼しました。

ライドクエストとは、自転車に乗るライドと、あと探訪とか探検のドラゴンクエストのクエストを合わせまして、造語でライドクエストとしています。自転車に乗って、市内を探検してもらって、市内の魅力を発見してもらおうという、そういうふうに見込んでございます。

以上です。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

ぜひ、この案内書とかなっているんですよ、パンフレットとかね。こういう横文字もいいんですけども、わかりやすく、かすみがうら市の魅力を自転車に乗って探索しようとか、こういう言い方で表現していただければなと思いますので、ぜひお願いします。

また、これ、答弁は結構なんですけれども、かすみがうら未来づくりカンパニーというのは、人、民間のコラボにより誕生した第三セクターでありますね。これは、当市にとって初めての試みでもありますし、新たな挑戦でもあります。今までの官の発想ではできなかった大胆かつ繊細な事業展開に今後とも期待をしていきたいところでございます。

しかし、一方で、結果を出すことは新会社の命題でもありますから、その名前が示すとおり

当市の未来はこの会社の成功のいかにかかっていると言っても過言ではないかと思われま。どうか、かすみがうら市の魅力にさらに磨きをかけて、日本国内にとどまらず、広く世界に向けて発信していただきたいと思います。このことは強く要望として申し添えます。

さらに申し上げますと、私もどのくらい客が入っているんだろうかということで、あの駐車場で人の流れを見ておりました。確かに、かすみキッチンに目的に来るお客様もいらっしゃいますけれども、水族館方面に親子連れ、家族連れで行かれます。そうすると、大体、真ん中を中心に駐車場で車が分かれるんですね。ところが、水族館に来たご家族はそのまま帰っちゃうんですね、見た後。かすみキッチンのほうに流れてこないわけですよ。

ですから、その辺のコラボも考えて、何かこれ、できるかできないか、わかりませんよ。ただ、水族館の半券を持ってきた人には、お子様に限ってはソフトドリンクをサービスいたしますとかね、いろんな工夫が考えられると思うんですよ。もうあれだけの人が来ているのに、かすみキッチンに流れてこないというのは非常にもったいないなと思うんですね。ですから、今後の手立てとしてその辺もよく考えて工夫してやっていただきたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

最後になりますけれども、観光業務について、お伺いします。

観光を前提とした情報発信という観点から再質問させていただきます。

国を挙げて地方創生が進められておりますけれども、人口減少時代の活性策として、国や県においても外国人観光客を大きなターゲットとした取り組みをしております。そういった関心を持ちながら、県では、はっきりと外国人観光客や他県を強く意識した取り組みをされております。市では、外国人への観光客誘致促進に向けて具体的な戦略をどう描いているのか、お伺いいたします。

○議長（藤井裕一君）

環境経済部長 田崎 清君。

○環境経済部長（田崎 清君）

外国人に限りまして、お答えをいたします。

平成32年東京オリンピック・パラリンピック、それと茨城空港の利用を見据えまして、まずボランティアで通訳をやっていただける方などの人材確保や、外国語表記の看板の設置、観光施設トイレの洋式化整備などができればと考えておりますが、いずれにいたしましても、市の予算化が必要でございますので、茨城県近隣市町村と連携しながら取り組んでまいりたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

本市では、固有の自然資源や果樹を中心とした地域産物が充実をしております。地方創生総合戦略においても本市特有の地域の魅力を磨き、新しい人の流れをつくるとしている中で、市の観光の取り組みとすれば積極的にPRに努めるべきであると、私は思うところであります。

市長公室では、シティプロモーション事業として積極的に東京都内に向けた市の魅力度や認知

度アップを図っておりますけれども、観光戦略としての市の特産物のPRとすれば、東京、神奈川、埼玉などの都市圏のデパートや駅において、観光と物産販売というPRもできると思っておりますけれども、いかがでしょうか。考えをお聞かせください。

○議長（藤井裕一君）

環境経済部長 田崎 清君。

○環境経済部長（田崎 清君）

お答えをいたします。観光の取り組みにつきまして、お答えをいたします。

本市は、都心から70キロの距離に位置しております。豊かな湖かすみがうらと筑波山系の雪入山、さらに温暖な気候から多くの農産物資源がとれております。ブルーベリー、梨、ブドウ、柿、クリ、イチゴ等々、1年を通して収穫できる果物など、その恵まれた自然財産をPRすることが必要であると考えているところでございます。

それと、都市圏を意識いたしまして、昨年度は県と市町村、JRと連携いたしまして、上野駅や浦和駅等での観光パンフレット配布や、東京銀座にあります茨城マルシェで地場産品の物品販売などを実施しております。地域の魅力発信に努めているところでございます。今後も観光PR体制の充実に努めてまいります。

よろしく願いいたします。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

何点かの質問をさせていただきましたけれども、現在の観光商工課の体制の中では、大きなイベントを3つ抱えながら、市本来の観光振興が図れるのかどうか、疑問に思われます。例えば、観光協会に加盟している団体の皆さんと市の方向性について、詰めの話ができているのでしょうか。私は疑問に思っております。

皆さんもそれぞれの思いがあるかとは思いますが、観光振興は大変大切な施策であります。観光独自の外向けの攻めの部分を前面に出しながら、観光振興を図っていくべきではないかと思っております。観光施策を具体的に実現するための戦略について再度お考えをお伺いいたします。

○議長（藤井裕一君）

環境経済部長 田崎 清君。

○環境経済部長（田崎 清君）

お答えをいたします。

市といたしましては、帆引き船フェスティバル、あゆみ祭り、かすみがうら祭りなどの各種イベントを開催し、各種観光資源を生かした観光交流人口の増加を目指していきたいと思っております。

さらに、かすみがうらエンデューロ、サイクリングプログラム、茨城国体2020、オリンピック、パラリンピックなどの機会を捉えまして、市の観光資源であります霞ヶ浦、筑波山系を背景いたしました豊かな自然環境が生み出す大地の恵みをアピールし、市のイメージアップを図っていきたくて考えているところでございます。

観光の推進体制といたしましては、観光協会を核といたしました関係団体や、産、官、学が一体となり、恵まれた交通基盤や立地条件を生かし、魅力ある観光を提供する活力ある観光地の実現を目指してまいりたいと考えております。

また、市総合計画にあります自然と調和したまちづくりを踏まえまして、より多くの市民の皆様にイベントに積極的に参加していただき、市民の交流と憩いの場とするとともに、広く人の流れを呼び込むものとしていきたいと考えているところでございます。

ご来場いただきました方から、この前、来たときよりもにぎわいが増していると思われるものとしていきたいと思っておりますので、ご支援、ご理解をよろしく願いいたします。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

最後になりますけれども、これは市長公室長のほうに質問したいと思います。

観光事業の一環ということで質問させていただきますけれども、このたび念願の認定になりました筑波山地域ジオパークについて、本市にどのような影響があるのか、また、どのような期待が持たれるのか、それらをお伺いいたします。

○議長（藤井裕一君）

市長公室長 木村義雄君。

○市長公室長（木村義雄君）

ジオパーク、聞き慣れない言葉だと思っております。貴重な地形、景観、大地の遺産というような表現でもございます。そういった貴重な資源を保全をしながら、観光や学術的に取り組むというような事業の1つであります。そういうように認識をしていただきたいというふうに思っております。

この事業につきましては、認定を2年前に同様の申請をさせていただきました。残念ながら、不採択というふうになったわけではあります。再度、市原つくば市長の強い熱意、この地域をどうするんだというような再度の声かけがありまして、つくば、土浦を周辺とした6市で協議会を再度検討しながら、立ち上げてきたというような内容でもございます。

2つほど課題がありました。テーマを絞っていこうという中で、関東平野の中の筑波山と霞ヶ浦というふうにテーマを1つに絞ったと。それから、市民の盛り上がりをどういうふうに2年間の中で再度構築していこうかというふうなこともございました。それぞれの6市の自治体の中の取り組み、それと合わせまして、市民活動の活発な動きと、そういったものにこの2年間を取り組んできたものと思います。その結果が実って、今回の認定というふうになったわけでもありません。

当市といたしましては、まず崎浜の非常に珍しいカキの化石群が1つあります。それから、歩崎周辺の太古の時代の東京湾の堆積物、あるいは鬼怒川の堆積物等があります。また、雪入の元採石場跡地、これも立派に再生をしたという中で、非常に日本ジオパークの認定審査の中でも大変な評価をいただいたところでもございます。

今後の展開といたしまして、行政課はさらにこの6市の連携を強化をしながらきずなを強くするというところでもあります。また、かかわっていただいた市民活動の学芸員の皆さんも言ってい

ました、これからが本当の取り組みであると。若い世代の観光ガイドの育成も含めた中で、今後6市と、あるいは市民活動と一体となった取り組みをしてまいりたいというふうに考えております。今後ともご支援をいただきながら、大きく期待をしていただければなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君。

○9番（小松崎 誠君）

この筑波山地域ジオパーク、大きな観光施策として市の活性化につながるように生かしていただきたいと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（藤井裕一君）

9番 小松崎 誠君の一般質問を終わります。

○議長（藤井裕一君）

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

次回は、明日9月13日定刻より引き続き一般質問を行います。

本日はこれにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

散 会 午前11時17分